ザンビア事務所活動報告（前編）

結核予防会国際部
計画課長　後藤 眞喜子
結核予防会ザンビア事務所
現地代表　松岡 裕子、プロジェクトコーディネーター　天野 さとみ

ザンビアでは結核は身近な病気の一つであり，同国のHIV感染率の高さ（12-14%），検査診断体制の脆弱性ともあいまって，結核を発病し亡くなる人が多くいます。結核予防会は，2008年にザンビア事務所を設立し，10年以上にわたって現地でコミュニティを主体とする結核対策を推進し，ザンビアの結核対策に貢献すべく活動を継続しています。2018年に行った10周年記念式典ではザンビア保健省から事務次官が出席され，10年間の活動に対する評価と謝辞をいただき，現地メディアにも取り上げられました。

本稿では，本号と次号にわたってザンビア事務所の活動報告と今後の活動予定に加え，ザンビア共和国とザンビア事務所の様子についても紹介したいと思います。

活動報告

ザンビア国ルサカ郡における結核の包括的予防・管理能力強化プロジェクト

ザンビア事務所では，外務省NGO連携無償資金協力および複十字シール募金により，2019年3月29日から2022年3月28日までの3年間，「ザンビア国ルサカ郡における結核の包括的予防・管理能力強化プロジェクト」を実施しました。

当初から新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け，これまでとは異なった形での実施を余儀なくされたプロジェクトでしたが，様々な工夫とアイデアで乗り切り，今までにない成果をあげられました。

当初の計画どおりに進まないことが多く，専門家派遣はオンライン研修に替わり，スタッフの渡航はキャンセル，ボランティアの普及啓発の中断など，事業の変更がたびたび生じました。その都度，いかに活動の質を損なわずに継続するか，ザンビア事務所と結核予防会本部で検討を重ね，さらに在ザンビア国日本大使館，外務省民間援助連携室の多大な理解とサポートをいただいて，3年間の活動を終えることができました。

様々な苦労がありましたが，徐々に現地職員やカウンターパートが自発的に活動し，事業に対するオーナーシップが強化されたことは，プロジェクト終了後の自立発展性にも寄与することと考えます。

★プロジェクトの概要と成果

【プロジェクトの活動】

○機材供与
- 日本製デジタルX線機材の供与
- GeneXpertの供与

○人材育成
- X線撮影研修
- X線読影研修
- 結核菌検査技師研修
- X線機器保守点検研修

○コミュニティ活動
- ボランティア育成研修
- ボランティアによる地域への普及啓発活動
- ボランティアによる服薬見守り活動

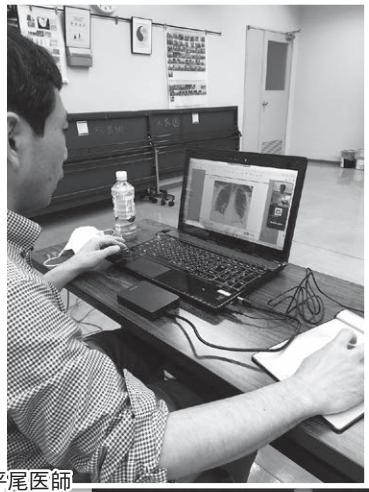
○施設への支援
- 保健施設でのデータマネジメント支援
- 結核に関連するフォーマットの作成など

【保健医療施設での活動成果】

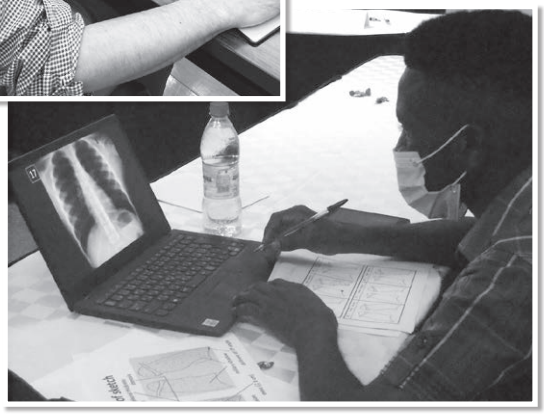
○年間の治療脱落者率が3.6％→2.9%に改善
○対象施設での顕微鏡による喀痰検査のメジャーエラーゼロ達成
○新規結核患者のうち自身のHIVステイタス知っている者の割合が，３年次第３四半期99.7%，第４四半期99.6%と目標である95%以上を達成
○結核ボランティア4施設70名を育成
○コミュニティでの啓発活動参加者：84,991名
○結核検査を受けた疑い患者数：41,187名
○治療を開始した患者数：3,628名
○治療成功率：88.4%達成
○出版：オペレーショナルリサーチの実施と掲載
- 結核菌陽性患者の治療前脱落の原因（10.5588/pha.22.0051）
- 喀痰の検体搬送システムの所要時間について(DOI: 10.4103/ijmy.ijmy_3_22)
- 結核患者の治療成績の再判定（DOI: 10.5588/pha.20.0059）

活動写真

プロジェクト終了時の集合写真。ルサカ郡保健局，保健ボランティアを始め多くの関係者が集まってくれました。



平尾医師
（結核研究所）



X 線読影オンライン研修

新型コロナウイルスの流行により，2019 年以前のように，専門家を現地に派遣して対面で研修することが難しくなっていました。それでも終息をただ待つよりできることを始めようと何度もトライして徐々にオンライン研修のクオリティを高めていきました。時差が大きいため開始が日本時間 17 時と，日本側も大変でした。X 線読影研修担当の平尾医師は遅い時間でも丁寧にひとりずつ声をかけて指導され，参加者からは何度も追加講義のリクエストがありました。

保守点検研修

良い機材を供与しても，メンテナンスをしなければあっという間に使えなくなってしまいます。プロジェクト終了後も長く使ってもらえるよう，医療技術だけではなく，機材の保守点検の研修を行っています。

検査技師研修

これまでは日本人の専門家を 1 か月間派遣していましたが渡航できず，現地のシニア技師が研修を担いました。日本人専門家はオンラインで研修の質をチェックし，研修の質を担保することに留意しました。

ボランティアリフレッシャー研修

保健ボランティアの活動も以前は大勢の住民の前でドラマ仕立ての普及啓発を行うことが多かったのですが，新型コロナウイルス流行の影響で，密にならないよう活動を見直すことに。患者への個別訪問を重点的に行うことに変更し，かえって良い評価を得ることもできました。

＊後編につづく